

平成 24 年度インターンシップ実施報告

— 一貫したキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2012 For Career Education

石田隆弘*1, 安昭八*2, 高橋久*3, 笠谷祐史*4
 野村恵美子*5, 金久保正明*5, 青島偉夫*6, 吉國博昭*6
 Takahiro ISHIDA, Syohachi YASU, Hisashi TAKAHASHI, Hirofumi KASATANI,
 Emiko NOMURA, Masaaki KANAKUBO, Hideo AOSHIMA, Hiroaki YOSHIKUNI

Abstract: Ours Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. In 2012, 55 companies in Shizuoka prefecture and 87 students participated in the internship programs. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2012. The results of this program over ten years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 10 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。このように、本授業は人材育成の手段として、確実に定着しつつあると言えよう。また、本学のキャリア教育の中で重要な地位を占める事業となってきた。

本報告は、平成 24 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果をまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得心か、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討している。さらに平成 11 年度から平成 24 年度までの 14 年間のインターンシップ実施結果の総括的なまとめ、および来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

また、今年度初の取り組みとして、平成 25 年春期に試行された春期インターンシップについても、その取り組みについて述べる。

2. 平成 24 年度インターンシップの計画

昨年度の反省点として、以下の点が挙げられた。

- ① 本学のキャリア支援教育が学生に広まってきたことにより、インターンシップへの関心も高まり、今後学生の応募数が増加することが見込まれる。このことから、従来の受け入れ企業との関係を深めると共に、さらに新規受け入れ企業の開拓が必須である。
- ② 実習生の態度や状況について、企業からの評価が低下傾向にあり、来年度以降、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要があると思われる。
- ③ 春期インターンシップ開催の可否について検討する必

要がある。また、開催の可能性がある場合には、試行の実施が望まれる。

平成 24 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ① 新規インターンシップ受け入れ企業開拓に取り組んだ。
- ② 企業側への受入希望調査を昨年度同様 4 月に開始した。
- ③ 企業からの全ての提出物を昨年同様 Web 上で入力できるようにし、インターンシップ受け入れ申込み、実習報告および評価作業などの効率化を図り、企業側への負担を軽減した。
- ④ 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。
- ⑤ 春期インターンシップを試行した。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。協力依頼企業の選定にあつては、過去 13 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮し、以下の条件で依頼状送付企業の選定を行った。

- ① 昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業、インターンシップ不可の返事をいただいた企業を削除。
- ② 平成 23 年度卒業生の就職先企業のうち、通勤可能な地域の企業を追加。
- ③ 春期インターンシップに関する企業アンケートにおいて、夏期インターンシップ受け入れが可能と解答のあった企業、インターンシップに前向きな企業を追加。
- ④ 求人ナビ登録企業の中で、インターンシップ受け入れが可能で、通勤可能な地域の企業を追加。

上記条件で選考の結果、インターンシップ受け入れの可能性のない約 330 社を削除、新たに 130 社を追加し、4 月 19 日に、394 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。

その結果、平成 24 年度においては、76 社・133 名分の実習テーマ受入申し込みがあった。現在も続いている景気低迷や円高の影響、また東日本大震災等の影響が多方面に残っているにもかかわらず、受け入れ企業数、実習テーマ数に関してはここ数年より増加した。これは本学のインタ

2013 年 2 月 19 日受理

*1 インターンシップWG リーダー、*2 機械工学科、*3 電気電子工学科、*4 物質生命科学科、*5 総合情報学部、*6 キャリア支援課

ンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、依頼企業の選択に関して、事務局職員の多大なる努力の成果であると言える。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には4月10日の第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実

習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望までの受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、通勤が危うそうな学生については個別に確認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、55社に87名の実習生を派遣することができた。

実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示した。また、表2および表3には、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示した。

表1 実習先受入企業一覧表(受入回答企業76社、募集人数133名、実習実施企業55社、実習学生87名)

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関わる業務を理解する	9/3-14	10	1	1
2	株式会社アイ・エス・ジェイ	愛知県豊橋市	CAD操作習得と組立図から部品図作成	9/3-14	10	1	0
3	株式会社アイ・エス・ジェイ	愛知県豊橋市	3D CADを使い製品図面作成	9/3-14	10	1	0
4	株式会社アイゼン	浜松市南区	専用機によるミクロン単位の製品製作、および専用工作機械の製作等が体験できます	8/30-9/19	15	2	1
5	アイティ・インターナショナル株式会社	静岡市葵区	映像クリエイター・webクリエイター・ITシステムエンジニア・プログラマーとしての実務	-	5	2	0
6	アイパルス株式会社	浜松市北区	チップマウンターの組立作業の一部を習得する	9/3-14	10	1	1
7	株式会社赤堀技研	袋井市	機械加工	8/20-9/14	15	2	2
8	ASTI株式会社	浜松市南区	車載電装品、又は制御機器の設計評価、生産技術	9/3-14	10	1	1
9	天方産業株式会社	浜松市中区	サーバとネットワークについて	9/3-14	10	1	1
10	天方産業株式会社	浜松市中区	マイコンを使用したソフト作成	9/3-14	10	1	1
11	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫の役割、業務内容、当庫の先進的取り組み	8/6-10	5	3	3
12	株式会社クイン・ターバン 小麦市場	焼津市	顧客満足を創造する	9/5-9	5	2	2
13	株式会社クイン・ターバン	静岡市駿河区	顧客満足を創造する	9/5-9	5	2	2
14	株式会社エー・ピー・アイコーポレーション 袋井工場	袋井市	微生物を用いた発酵実験及び発酵液からの有用物精製実験	8/6-10	5	2	2
15	エズカ工業株式会社	磐田市	機械組立補助、検査補助、工具使用による作業	8/21-9/19	10	2	0
16	株式会社エヌエステイ	浜松市北区	電子機器製作における基本的な作業や簡単な検査業務	8/20-31	10	1	1
17	NNP電子株式会社	磐田市	電子制御機器の試作品実験データ取り・検査	9/3-14	10	1	1
18	株式会社エフ・シー・シー	磐田市	自動車・オートバイ用クラッチの製造	9/5-18	10	3	3
19	遠州鉄道株式会社	浜松市中区	営業・IT業務を体験する	9/4-10	5	1	1
20	遠藤科学株式会社	静岡市駿河区	科学機器商社の主要な業務内容全般と客先訪問	9/3-7	5	1	0
21	株式会社オートベル	沼津市		-	5	2	0
22	株式会社小楠金属工業所	浜松市西区	精密機能部品の切削加工と生産技術	9/3-14	10	2	0
23	株式会社かきこや	浜松市中区	明るく、元気な接客	9/3-16	10	2	2
24	化工機プラント環境エッジン株式会社 袋井事業所	袋井市	下水処理施設の運転・維持管理	8/6-10	5	1	1
25	川崎工業株式会社	菊川市	機械技術の習得	9/3-14	10	2	1

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
26	株式会社カンセツ	浜松市東区	生産設備の自動化	9/3-14	10	1	1
27	株式会社木村鋳造所	清水町	CAD/CAM を用いた鋳物用模型の製作及び鋳物工	8/27-9/10	10	2	0
28	株式会社コーリツ	磐田市	各種生産設備の保全業務を体験	8/6-11	6	1	1
29	株式会社コバテック袋井工場	袋井市	小型減速機の設計から加工、組立の実習	9/6-19	10	1	0
30	株式会社小林製作所	富士市	手抄き紙の作成および紙試験	-	5	2	0
31	株式会社佐塚工業所	島田市	製造業での実戦体験	9/3-14	10	2	0
32	佐藤農園	山梨県山梨市	生産:モモ、ブドウの収穫、販売、イベントの準備、運営、片付け	8/29-9/9	5	3	3
33	CDS株式会社	愛知県名古屋	各種ソフトを使用した製作実習	8/27-31	5	2	2
34	静岡ガス株式会社	富士市	ガスタービン・ガスエンジン・コージェネの日常点検作業や運転管理の見学および演習。	9/3-7	5	2	0
35	静岡県サッカー協会グループ エコパハウス	袋井市	運動公園のウラカタを見よう!	8/17-9/6	10	3	3
36	静岡県中小企業家同友会	静岡県葵区	県内の中小企業(会員)への訪問、事務サポート、会合出席	9/3-7	5	1	1
37	株式会社静鉄ストア	静岡市葵区	接客・販売・製造・清掃・荷出し等	8/4-31	10	2	2
38	シブヤ精機株式会社	浜松市東区	農業用選果・選別システムの設計実習	9/3-14	10	2	2
39	ショードテクトロン株式会社	浜松市西区	CAD を使用して、図面の作図を行う	9/3-14	10	1	0
40	株式会社ショーワ二輪サス開発部	袋井市	二輪用ショックアブソーバの開発業務	9/3-14	10	3	1
41	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	マフラー製造工程の実習とエクセルを使った管理資料作成	9/3-14	10	2	1
42	鈴与システムテクノロジー株式会社	静岡市清水区	チームで協力してひとつの仕事完成する・システム開発を経験する	9/10-14	5	3	1
43	社会福祉法人大乗会特別養護老人ホーム御寿園	三島市	共に笑い、共に泣き、共に感動する	9/3-14	10	2	0
44	株式会社大進堂	磐田市	DTP ワークを中心に印刷物製作の基礎を学ぶ	8/20-29	8	1	1
45	ダイハツ沼津販売株式会社	沼津市	店舗総合営業活動	7/21-9/16	10	3	0
46	高松電機株式会社	浜松市東区	自動制御盤の製作現場を見て体験する	9/3-14	10	2	0
47	竹原産業株式会社	袋井市	家周りのレイアウト	8/4-8	5	1	1
48	株式会社田子重	焼津市	販売員・商品管理	8/4-20	10	3	3
49	株式会社ダスキン富士宮	富士市	レタリング営業同行により、実際にお客様とコミュニケーションをとり、対話の中から、営業に対する基本的な知識とスキルを学ぶ	9/3-7	5	1	1
50	農事組合法人 茶夢茶夢ランド 菅山園	牧之原市	農業をしながら食の大切さ、ありがたさを肌で実感し、お客様に喜ばれる茶・いちごを出荷する。	9/3-7	5	4	2
51	東海テクノ株式会社	静岡市清水区	設計技術計算と CAD による作図	8/6-17	10	1	0
52	有限会社巴川加工所	静岡市清水区	地域産業との連携による地域に役立つ人材の育成	9/10-14	5	2	2
53	豊川信用金庫	愛知県豊川市	信用金庫法に基づく金融業務	8/13-17	5	3	0
54	豊橋市役所	愛知県豊橋市	子供たちの成長の機会を提供	8/10-21	10	1	1
55	ニチアス株式会社袋井工場	袋井市	生産技術開発及び製造業務の補助	9/10-14	5	1	0
56	日星電気株式会社	浜松市西区	モノづくり体験	8/1-31	10	1	0
57	浜二ペイント株式会社	浜松市南区	木工用塗料の検査及び塗装	9/3-7	5	1	1
58	浜松ケーブルテレビ株式会社	浜松市中区	番組制作	9/10-21	9	1	1

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
59	浜松鉄工株式会社	磐田市	測定器具を使用したの部品検査、熱処理業務の理解と実作業～検査	8/21-31	10	2	2
60	株式会社早川製作所	袋井市	非鉄金属(アルミ、シンチュウ)の量産工場における加工技術	9/3-14	10	1	1
61	袋井市 月見の里学遊館	袋井市	月見の里学遊館の事業や施設運営についての実習	8/4-25	10	2	2
62	袋井市役所	袋井市	市役所業務(資料作成・行事参加など)を体験	8/13-31	10	3	3
63	不二工機製造株式会社	浜松市中区	工程設計(ST)作成	9/3-7	5	1	1
64	富士ロックス静岡株式会社 浜松支店 ODP	浜松市中区	望まれるものを、高い品質で はやく創り上げる	9/3-14	10	2	2
65	ポラ化成工業株式会社 袋井工場	袋井市	製品品質検査(受入れ～出荷)	9/3-7	5	1	1
66	株式会社ホテル銀水荘	賀茂郡 東伊豆町	日本旅館でのおもてなしを学ぼう	8/4-9/19	14	2	0
67	ホテル玄	浜松市 東区	ホテル業務の実習	9/8-13	5	3	3
68	株式会社ホンダカーズ静岡西	浜松市 北区	自動車販売の最前線と本部業務	8/17-21	5	1	1
69	松本印刷株式会社	吉田町	営業、製作、仕上加工、総務まで	9/3-7	5	1	1
70	株式会社メカワールド	磐田市	現場体験に基づく職業観の育成と進路選択肢の拡張	9/3-14	10	1	1
71	株式会社森町体験の里 アクティ森	森町	接客を通してサービス業を学んで頂きます。	8/7-20	14	2	2
72	山崎工業株式会社	静岡市 駿河区	国内需要にフレキシブルに対応する中小企業の生産努力を体感する。	9/3-7	5	2	2
73	やまと興業株式会社	浜松市 浜北区	商品開発から納入までの流れを学ぶ	9/6-19	9	3	3
74	ユニクラフトナグラ株式会社	湖西市	ロボットシステムの組み付け作業	9/3-14	10	2	1
75	株式会社吉和田浜松	浜松市 東区	当地大手製造業の現状と産業用機器商社の実務を学ぶ	9/10-14	5	1	1
76	株式会社ロジック	浜松市 中区	プログラミング実習(自習形式が主になります)	9/10-14	5	2	2

実習人数が「0」となっている企業は、二次・三次募集で追加した企業のうち、実習申し込みがなかったもの
 期間・日数等が「-」となっているものは、詳細が未定だったもの

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	1年	2年	3年	4年	計
機械		2	14		16
電気電子			14		14
物質生命		2	9		11
コンピュータ		2	24		26
人間情報		2	18		20
計	0	8	79	0	87

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数	市名	人数
浜松市	20	掛川市	1	湖西市	1
袋井市	10	菊川市	1	富士市	1
磐田市	7	森町	1	豊橋市	1
静岡市	6	牧之原市	1	名古屋市	1
焼津市	2	吉田町	1	山梨市	1

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会	事後研修
機械	44	21	16	15	16
電気電子	59	24	16	17	15
物質生命	65	19	11	10	10
コンピュータ	53	34	27	26	25
人間情報	47	28	21	21	21
計	268	126	91	89	87

表 5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>[機械設計・開発・などの分野] 機械設計. CAD による作図. 受注生産機の機構・開発設計. 試作機の性能確認. 自動車部品のモーター駆動化をにらんだ先行技術開発. 図面検証→試作→評価. 製品開発の補助作業. 鍛造. 金型の設計・製作現場を学ぶ. 開発・設計現場において開発業務を体験. 3次元 CAD を使ったパーツモデリング. エレベータ部品の設計. 開発品の試作, 製作, 評価. 健康関連機器の開発補助.</p> <p>[生産・機械加工・試作・もの作り・などの分野] 機械加工実習. クラッチディスク摩擦材の抄造作業. 自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工. マシニングセンタによる製作, ワイヤ放電加工. オートバイマフラーの製造工程. 塑性加工(鍛造, 熱処理作業工程). 非鉄金属の各種加工. NC 加工汎用機の体験. 金型設計→加工→仕上→射出成形の体験. パイプ曲げ, ロウ付け, 溶接, 出荷等. NC 旋盤, マシニングセンタ, ホブ盤. 細穴放電加工. 洗濯機の部品製造から組立作業まで.</p> <p>[検査・測定・実験・などの分野] 完成品検査. 画像処理装置. 加工条件設定のための測定分析. 試作機の性能確認. 2輪車用ショックアブソーバのテスト. エレベータ関連部品の品質調査. ショックアブソーバの試作組立, ベンチテスト. 自動車部品の性能試験. 品質管理及び試験活動のサポート. フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押し出し条件確立. 位置決め XY テーブルの評価実験. 自動車部品の振動特性測定. CAE による振動解析. 金属疲労分析. プレス製品の性能評価. 実験データの測定と理論解との比較.</p> <p>[電気・電子関係の開発・実験・などの分野] 工場内各種機器の電力集計及び分析. 工場内照明器具, 空調機器, 動力機器の使用電力集計及び分析. 電子制御機器の試作品実験データ収集. 超音波応用機器の開発設計.</p>	<p>AutoCAD による電気回路の設計. 高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析. 微細認識工学系における照明の解析. 電磁部品の評価検査. 各種回路の計測制御. レーザ干渉計を使用した変位測定. 太陽光発電システムの取付実習.</p> <p>[物質科学関係の開発・実験・などの分野] 微生物応用による開発試験. 汚水浄化システムの理解. 水処理施設フローの習得と運転管理. 電子顕微鏡取扱業務. 環境計量における, 試料の前処理. 有機合成による香料分質の合成・精製. 化粧品品の品質管理. FeNi 合金の磁気特性調査. し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習. 銅合金の透過電顕による組織観察. 緑茶カテキンの分析・整理. 水質分析.</p> <p>[情報関係などの分野] 図書館業務全般. エレベータ電気手配自動化ソフト作成. 物流業務と情報システムの現場実習. パソコンデータ入力. IT システム管理, ユーザーサポート等. PC 機器類の研究指導. インターネットを使った情報収集. ワード・エクセルなどの応用. 市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成. 3次元 CAD ソフトと遠隔ネットワークシステムの習得. データ収集プログラムの作成. データベースソフトの作成. Linux のリアルタイム制御. 発信用ソフトのデモ用サンプル制作.</p> <p>[企業経営・管理・などの分野] 接客サービス. 本社として各支店との事務連絡業務. 接客販売. 放送・番組制作における技術部門の仕事. 現場見学, 実習(配管, リフォーム, 不動産). PR・広報等. 社会人になるための基礎教育の体験. ベンチャー企業の経営現場. 作業工程管理. 新製品のマーケティング.</p> <p>[福祉活動・団体活動などの分野] 消火・救急訓練, 消防機材点検等, 施設内外の整備(窓拭き, 草刈り, 押入れ掃除等), 重度障害児(者)の介助, 散歩・制作活動等の介助. 市民参加の地域福祉活動.</p>
---	--

5. 事前教育について

前述したように, 4月10日から3回にわたり事前研修会を開催し, インターンシップを受けるにあたり, 基礎的必要事項や心構えなどを説明した. 第1回事前研修ではインターンシップへの関心が高まったためか, 268名の参加があり, 急遽教室を増やし, 2教室でのガイダンス開催となった. 第1回事前研修の内容は, インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え, 履修等について説明を行った. 第2回事前研修では, 先輩体験報告および, 実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った. 第3回事前研修では, 実習に向向くにあたっての諸注意事項, 報告書類等提出物の説明をおこなった.

今年度はキャリア支援教育がカリキュラムに組み込まれ, 十分なキャリア教育が行われているため, 昨年同様事前研修は3回とした. 事前研修に関しては3回で十分であると思われる.

このように, 3回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えている. 事前研修への参加者数を表4に示した.

また, 各事前研修はビデオに収録し, 事前研修当日に実験・実習やその他の理由により参加できなかった学生も, 後日 DVD を見て内容に関するレポートを提出することにより, 事前研修の補講を受けることができるよう配慮した. また, 春期インターンシップの事前研修にも利用した.

第1回事前研修には268名参加者があった. 学生の希望により調整を行った結果87名が企業実習を行うこととな

った. 実習参加率は32.4%となり, 昨年の38.7%よりは参加率が下がったが, 参加人数は増加することができた.

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって, まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した. これは双方の義務や責任を明らかにし, 万一の場合に備えるため, 実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり, 双方が署名捺印した.

また, 学生は実習に先立って, 参加申込書の提出にともない助言教員の承認をうけることになっている. これは本学教員への連絡だけでなく, 学生が自から参加の意思を示すことで, キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある.

インターンシップ実習は, 8月4日から9月19日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ, 滞り無く終了することができた. 各事業所における実習期間中には, インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として, 受け入れ企業に担当教員が出向き, 実習受入担当者と面談を行った.

過去3年間に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した. 本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数, 実際に実習を実施した企業の数, 募集学生数, 参加学生数, 単位取得学生数の変化を図1に示した. 昨年度は企業を取り巻く不況の影響により受入事業所数は横ばい状態であったが, 今年度は受け入れ企業・実施

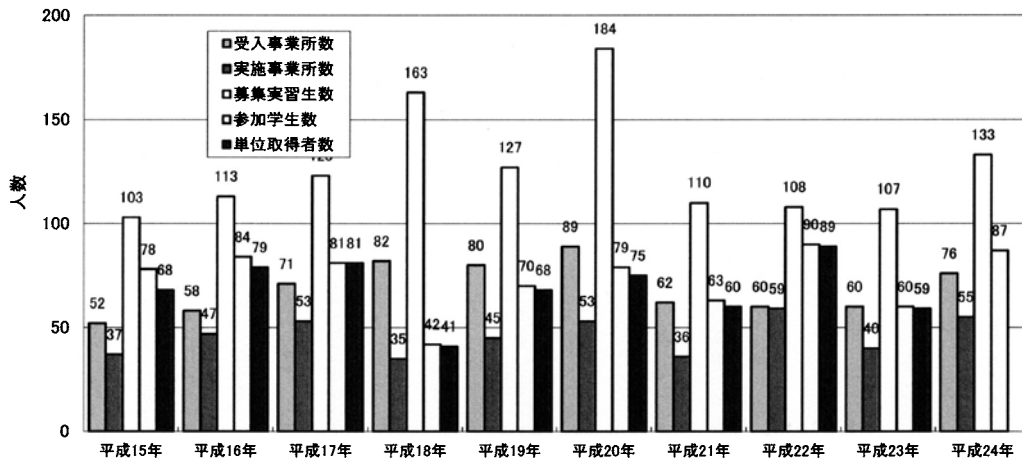


図1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

事業所数とも増加した。また、参加学生数も減少傾向にあったが、キャリア支援教育の成果が現れ、今年度は一昨年並に回復した。10年間の参加学生の累計は700名以上となった。

参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の特徴は、総合情報学部参加人数が急増したことである。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験しなかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。「製作、組立、加工」が1位で31%、「営業、接客、販売」は21%で2位であった。昨年度は、1位「製作、組立、加工」、2位は「営業、接客、販売」と「実験、測定、試験、分析」

の順であった。昨年と比較して特筆すべきこととしては製造業と営業活動部門である「製作、組立、加工」および「営業、接客、販売」の割合が、昨年度の2倍程度増加しており、製造部門の景気回復の兆しを表しているようにも思われる。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」が29%で全体の1/3弱を占めており、2位の「企業の現場を見ることができた」は17%で共に昨年度の約3倍である。3位の「仕事に対する熱意、緊張感、厳しさ」は16.6%で昨年度の約2.5倍である。

「人との付き合い方、会話の重要性」についても、昨年度の9.1%から15.8%になり約1.7倍の増加を示している。

「企業や職場の雰囲気がわかった」と「企業の現場を見ることができた」が昨年度より3倍程度増加しており、内にこもり、外の情報を知らない学生が増えているように思われる。また、「人との付き合い方、会話の重要性」についても昨年度の1.7倍に増加しており、コミュニケーション能力の低下が現れていると考えられる。

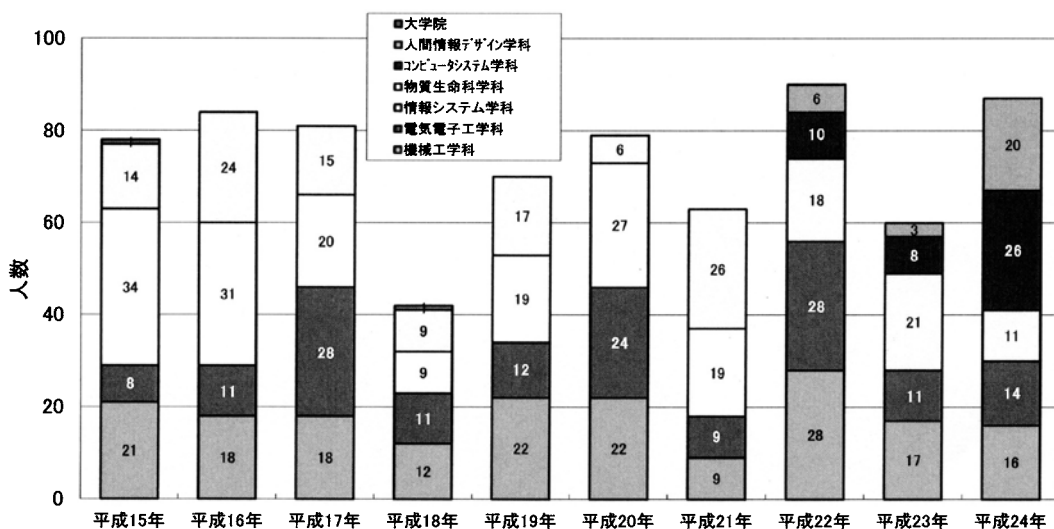


図2 参加学生数の学科別内訳 (10年間の変化)

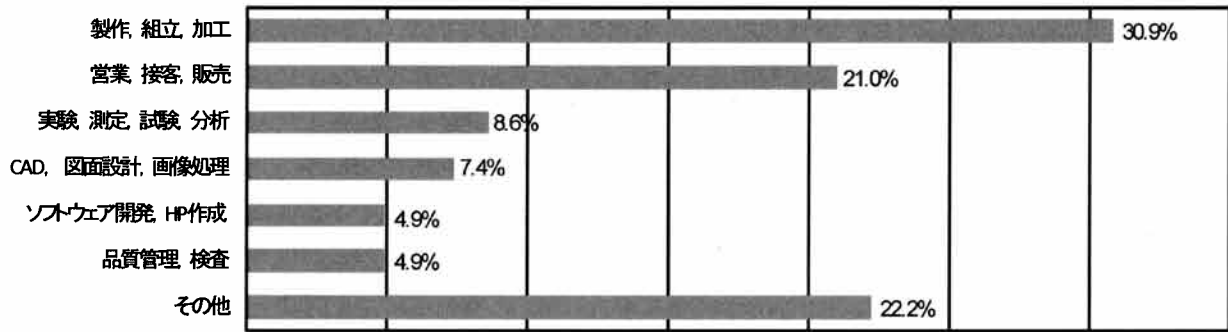


図 3 実習内容の詳細

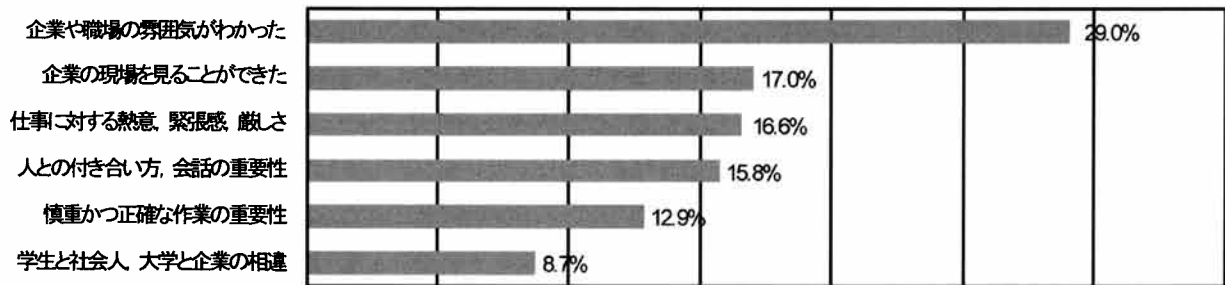


図 4 実習によって得られた成果

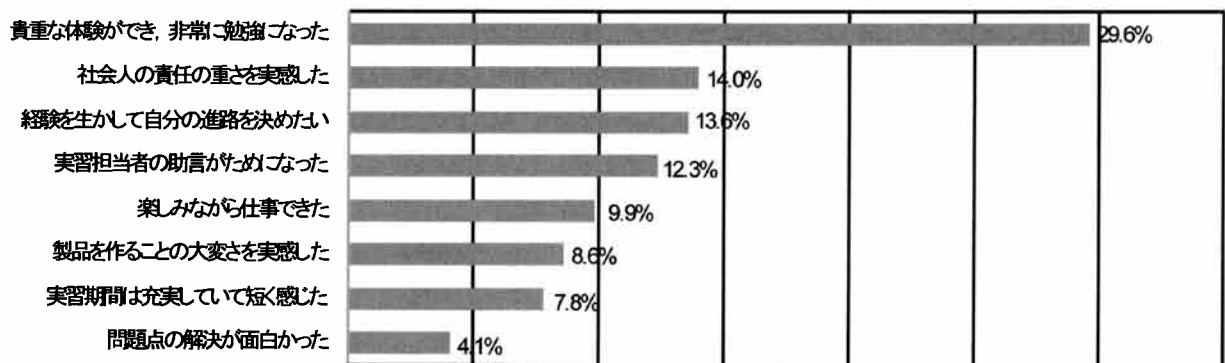


図 5 実習に関する感想

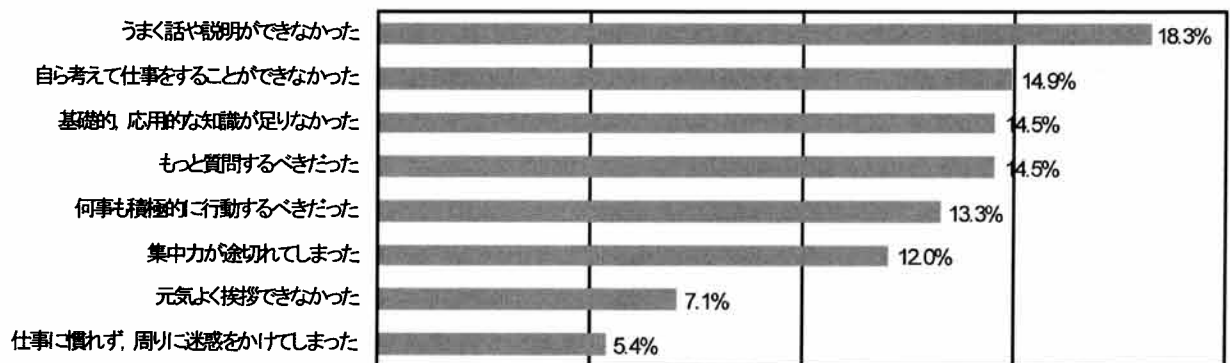


図 6 実習に関する反省

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 87)

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか?	59 67.8%	9 10.3%	17 19.5%	2 2.3%	0 0.0%	4.4
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事など)はいかがでしたか?	28 32.2%	30 34.5%	25 28.7%	4 4.6%	0 0.0%	3.9
実習内容はよく理解できていましたか?	27 31.0%	43 49.4%	15 17.2%	2 2.3%	0 0.0%	4.1
仕事に対し、よく実行・行動・努力していましたか?	25 28.7%	40 46.0%	16 18.4%	6 6.9%	0 0.0%	4.0
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	27 31.0%	36 41.4%	21 24.1%	3 3.4%	0 0.0%	4.0
創意工夫の姿勢は見られましたか?	12 13.8%	28 32.2%	40 46.0%	6 6.9%	1 1.1%	3.5
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	15 17.2%	37 42.5%	30 34.5%	4 4.6%	1 1.1%	3.7
責任感を持てていましたか?	29 33.3%	36 41.4%	22 25.3%	0 0.0%	0 0.0%	4.1
協調性はいかがでしたか?	19 22.1%	38 44.2%	25 29.1%	2 2.3%	2 2.3%	3.8
全体評価	23 26.4%	44 50.6%	16 18.4%	4 4.6%	0 0.0%	4.0

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」をまとめたものが図5である。実習内容に関する感想としては、「貴重な体験ができて、非常に勉強になった」という感想が26.9%で1位であり、昨年度と比較して2倍弱増加している。2位は「社会人の責任の重さを実感した」であり、昨年度の9%から14%に上昇している。3位の「経験を活かして自分の進路を決めたい」も、昨年度の6.8%から13.6%に2倍増している。

一方、「問題点の解決が面白かった」は4.1%であり、昨年度の半分以下である。その他の感想は、昨年度とほぼ同様であった。

これらの結果から、インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。その中で1位は「うまく話や説明ができなかった」であり、昨年の10%に対し18%であった。2位は「自ら考えて仕事をするのができなかった」が、昨年の6.5%から14%と2倍以上増加している。その他は昨年度とほぼ同様な結果であった。

この結果から、学生のコミュニケーション能力の不足がより深刻になってきていることが伺える。キャリア支援活動の中にコミュニケーション能力の向上を目的としたプログラムを積極的に取り入れる必要がある。また、自ら考えて仕事ができるようにするには、学生に考えさせ、創造できる能力を付与するようなカリキュラムを展開していく必要がある。

8. インターンシップ実習の評価(受入企業、訪問教員)

インターンシップ終了後、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業、参加学生および訪問教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項目について5段階で評価するものとした。その結果(回答数87)を表6に示した。評価の平均値は昨年と比べ若干低下傾向にあった。「勤務態度」が0.2、「内容理解」が0.1上昇したが、「勤務状況」・「実行・行動・努力」・「正確」・「責任感」・「協調性」で0.1下がり、「積極性」では0.4下がった。「創意工夫」に関しては昨年度と同じ値であり、「全体評価」は0.1下がった。「創意工夫」・「積極性」で1名、「協調性」に関して2名が「劣る」の評価を受けた。「積極性」に関しては、一昨年度にその前年より0.4下がり、昨年度に0.5と回復し、今年度再び0.4下がった。ここ数年他の項目に比べて年度による変動が大きくなっている。

評価値が若干下がり気味であったのは、昨年と比べて参加者が1.4倍程度あり、参加した学生層が膨らんだことが理由として考えられる。問題点は「創意工夫」の値が3.5と昨年同様に低く、他の項目に比べても低いことである。本年度は「積極性」の項も同程度に低い。これら項目の評価点を上げるためには、入学当初から対策していくことが必要で、インターンシップの事前研修で強調する程度では不十分であろう。「創意工夫」の欠如を本学学生の欠点として全教職員が認識し、やらまいかプログラムやPBL教育手法を講義の中に積極的に導入し、普段から観察し考えて行動する応用力を養うように指導していく必要があると

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜積極的な行動が評価された＞
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は明るく、また実験中の操作は丁寧でした。今回の実習内容では実験結果に対する考察が複雑でしたが、分からないところは質問して積極的に理解しようとする姿勢が見られました。 ・全体的には良い印象でしたが、質問に対して適切な受け答えができない場面がありました。ただこれも経験を積みば克服できることと理解していますので、本人の今後の成長に期待したいと思います。 ・特に受け答えがしっかりしていました。決して饒舌ではないのですが、相手に伝わる内容のある表現をすることができます。 ・人見知りのようで最初はグループメンバーと積極的にコミュニケーションを取っていないようで心配しました。しかし日が経つにつれてメンバーと馴染んでようど安心しました。 ・礼儀をわきまえており、また、依頼した業務も正確かつ迅速に処理されました。行政に対する関心も高く、自分自身の知識として吸収しようとする姿が見受けられました。 ・リーダーの指示に従い、着実に業務を実行しました。もう一步前にできることを期待いたします。就職活動は、仲良し3人組でなく、1人で行うように指導をお願い申し上げます。 ・例年になく猛暑の中、頑張って真面目に仕事をされました。 ・コミュニケーションをとる中で やや戸惑う場面もありましたが、実習そのものは意欲的に取り組んでいました。分からないことは積極的に質問し、改善案も出してくれました。 ・リーダーの指示に従い、業務を着実に実行したことを評価いたします。また、献身的な行動も多くみられ、業務を安心して任せることができました。今後は、一步前にするような行動をすることを期待いたします。就職活動は、仲良し3人組でなく、1人で行うように指導をお願いいたします。 ・元気で明るい第一印象を相手に与えるよう、自分の魅力を引き出す努力をさらに高めていってほしいと思います。 ・真面目で、受け応えも大変良い。ただ、本当に解ったのかなと思うところもある。「はやのみこみ」で失敗しないかな？との心配も多少あります。確実に理解してから次の行動に移ることで、すばらくなるでしょう。 ・理解力にすぐれており、目的をあきらかにして行動する習慣がついていると思われま。 ・インターンシップ学生の受け入れは2回目ですが、実習内容が学生の求めている内容とあっているか考えさせられます。北米に出荷の設備準備に忙しく細部にわたり説明ができませんでしたが、大変よく頑張ってくれました。 ・協調性があり、作業も落ち着いてしっかりできていました。今後も意欲的な活動を心がけてください。 ・挨拶は明るく、言葉遣いも丁寧でした。今回の実習内容では実験結果に対する考察が複雑でしたが、分からないところは質問して積極的に理解しようとする姿勢が見られました。 ・慣れない環境の中で自分から積極的に溶け込もうとしたり、意見や質問をする姿には感心しました。また、大変個性的な面もあると思いますので、公務員だけに拘らずに、個性を十分活かせる職を探してみるのも良いと思います。環境イベントの準備、当日の従事も積極的に動き、また、参加者への声掛けなどががんばっている姿が、印象的でした。不法投棄のごみの回収でも「きれいな」仕事ではなかったにもかかわらず、フットワークが軽く、素直に忠実に動いていただいて感謝しています。また、市民に接する態度も優しく、細やかで言葉遣いも丁寧でした。社会人として立派に対応出来ると感じました。多くの選択肢（可能性）の中から自分にあった職業を見つけられるようこれからもがんばっていただきたいと思います。 ・緊張していたように感じます。もう少し元気に伸び伸び動いて頂いて良かったのですがおとなしい印象が残ります。それが優しい雰囲気として表れていて、お客様は癒されたかも知れません。頑張ってくれていたのは良く分かります。ありがとうございました。 ・一週間という短い期間で評価するのは難しいですが、知識・技術共にすぐに使えるものを持っており、感心させられました。真夏の暑さで後半少しスタミナ切れのように見えました。 ・リーダーの役割を果たし、佐藤農園の売上に貢献したことを評価いたします。今回の経験を活かし、自信を持って何事にも望んでください。就職活動はなかよし3人組でなく、1人で行うように指導をお願いいたします。 ・難しい課題を与えたと思うがよく頑張った。 ・気づきが多く、良く動いて下さって助かりました。コミュニケーション能力に優れ、職員からもお客様からも好印象でした。忙しいなかでもいつも良い雰囲気を出してくれて前向きに取り組んで頂き、有り難かったです。 ・真面目に、努力するタイプであると思います。今回は、創意工夫には????がりにくい実習内容ではあったが、より積極的になることと、工夫することを併せて考えていけば、これからもっと伸びていける要素を持っていると思います。頑張ってください。 ・実習で学んだことを、今後に活かすことを期待します。

- ・ 定型的な事務から、子育て支援センターでの実習まで多岐に亘る業務にご協力いただき当方としても大変助かりました。ありがとうございました。
- ・ 大変意欲的に就業をしていただきました。他の従業員とのコミュニケーションもしっかりとられパート社員の評価も大変良かったようです。
- ・ 毎日7時前ごろ来社する姿勢は好感が持てた。
- ・ 返事は良いのですが、ミスが目立ちました。発表では一番大きな声で発表することができました。
- ・ 事前の確認から終了時まで、大変しっかりしたまじめな態度で勤務いただきました。指導に対する飲み込みはよく、ポイントを掴むことができていました。ただ短期間でもある為、職場の雰囲気慣れた頃には終了となるため、創意工夫を求めるにはかなり無理があると思います。
- ・ よく頑張りました。指示を受けるときは良く理解し自分のものにしてから実行するようにすれば社会で力を発揮するでしょう。
- ・ 仕事には真面目な姿勢で取り組んでいたと感じました。
- ・ リーダーシップを発揮してがんばりました。
- ・ グループワークでは、他大学の学生とも活発にコミュニケーションをし、自身の考えを伝えようとする姿が印象的でした。
- ・ WSにおいては、参加者に声をかけるなど、積極性が見られました。与えられた課題（WSの企画）に対しても熱心に取り組み、来年度実施できそうな企画が提案されました。
- ・ 夏の炎天下に野外作業もありましたが、気持ちよく業務していただけました。また、日々問題意識を持ち従事できました。周りに伝わるぐらい積極性が全面に出るとさらに良いと思います。
- ・ 研修を担当した社員から、理解は早かったと報告を受けております。また、研修態度も良く、お客様との対応も笑顔で出来ていました。前向きな姿勢と素直な性格で研修中も周囲からも好かれていました。

<問題点の指摘があった>

- ・ 実習時に指摘すればよかったのですが、敬語の使い方を間違えていることが時々ありました。これでは気になって会話に集中できません。また、考えながら話すことに慣れていないのか、言い回しが理屈っぽくなる傾向があります。状況を正確に伝えることも大切ですが、言い訳と受け取られることも多いので特に面接等では要注意です。「相手」を意識したコミュニケーションを心掛けて、本人のまっすぐで誠実な性格がうまく伝わることを願います。
- ・ 元気がない。声が小さい。人の話を良く聞こうとすることからか、メモを取るなどに手が回らなかった。事前打合せの際も「メモを取らなくてもよいの?」とってから取り始めるなど臨機応変さが足りないかを感じる。
- ・ 来社に先立ち、社長の名前や業務内容等もう少し真剣に事前学習をしてきてもらいたかった。
- ・ 少し積極性が足りない面もあり、自分から発言することも今後アドバイスして頂ければと思います。
- ・ 真面目・おとなしい
- ・ 社会に出ると一番大切なのはコミュニケーション能力となります。自分の意思を相手に伝えるのは、とても難しい事ですが会話がすべてとなりますので、人との係りを大切にしてください。
- ・ 非常にまじめですが、おとなし過ぎた感が有ります。休み時間など、自分の趣味の話でも構わないので、積極的に会話できると今後の社会生活も楽しく豊かなものとなります。
- ・ おとなしい性格ですね。社会ではもっと積極的に行動をした方が、いい印象を持ってもらえますよ。これからも頑張ってください。
- ・ 発言する時に声が小さかったのもう少し大きい声で発言すると良いと思います。
- ・ 作業は問題ないのですが、態度からあまりやる気は感じられませんでした。
- ・ 送付いただいた履歴書から、プログラミングが得意と受け取りましたが、本人との会話の中では、プログラミングへの強い関心が感じられませんでした。コミュニケーション能力の不足を感じました。プログラミングに限らず、自信が持てるものを何か1つ見つけるか、自信が持てるまで自己研鑽することでコミュニケーション能力の向上が図れるのではないかと思います。
- ・ もう少し大きな声で元気よく対応できたら良かったと思います。やや積極性に欠ける部分はありましたが、職務については、責任をもって取り組みました。
- ・ マイペースで困りました自覚が足りません。

考えられる。

表7には個人別の所見として述べられた主要なものを示した。「明るく元気があるか」、「応答がよいか」、「はっきりとわかるように発言できるか」等のコミュニケーション

ンに関する基本的な振る舞いで評価が分かれていると思われる。教育的立場からは、これらの点で評価が低い(真面目だがおとなしい等)学生への指導が課題になるのだろうが、方法論を見出しにくい課題であると思われる。

「明るく挨拶ができる」、「礼儀正しい」等の前向きな評価の一方で、「敬語の使い方の間違えが気になる」との指摘もあった。敬語の用法に不慣れな世代であるとも言えるが、集中的に学習する機会が必要と考える。また、本人の希望と実力のギャップが実習の場面で顕在化してしまったケースもあり、実習先の割当に配慮が必要であると考えられる。その他、インターンシップの実習として適切な内容であったかどうか考えあぐねている企業も一社あり、インターンシップの意義等の事前説明をより強調して行う必要があるかもしれない。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。いずれの項目も、約90%の回答が適切あるいはほぼ適切という結果となった。ただ、昨年度と比べて「適切」より「ほぼ適切」の割合が増加しており、8.1の実習生に対する評価が下がり気味であることと合わせ、事前指導をより充実させる必要があるかもしれない。

8.3 学生によるインターンシップの評価

学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図8に示した。指導や指導内容への満足度の高さが確認できる。卒業を1年以上あとに控え、現場に就業に出る貴重な機会に、的確な指導を受けて自らの学ぶべき、あるいは工夫すべきポイントを痛感し、その後の勉強・生活にフィードバックできるのは、他では得難い貴重な経験となっていることが見て取れる。是非この制度を継続改良発展していくことが望まれる。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位認定のために、インターンシップ先での本学学生の実習状況を調査して評価をする必要がある。このため本年度も各派遣先企業に担当教員が訪問し、各企業の受け入れ担当者および実習学生本人と面談して聞き取り調査を行った。その実習先訪問担当教員の訪問報告をもとに、学生の実習への「取り組み」をグラフにまとめたのが図9である。また、実習生の「意欲」をまとめたのが図10である。「取り組み」では全教員が肯定的評価を下し、殆ど

の学生が意欲的に取り組んでいた事を伺わせるグラフとなっている。

訪問教員による企業での実習内容が教育的であったか、実習プログラムは充実していたか、指導状況は良好かという項目に対する評価は、3つの質問項目とも5段階評価で5または4の好意的評価が75%以上であった。充実度のみ3が23%あったが、概ね良い評価だった。また実習学生に対して指導困難な様子が伺えたかという質問に対しては、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて27%程あり、指導困難な状況が無視できない割合で起こっていた事を伺わせる。これらの結果を図11に示す。

自由記述欄の内容では、次のような肯定的な意見が見られた。

- ・営業への同行等、学生が体験した事のない業務が多く充実している
- ・工作機械を用いた実務的かつ学生でも可能な難易度
- ・大変丁寧に御指導くださっている様子が伺えた
- ・新しい商品提案などを実習生同士で検討し、プレゼンテーションを行なっている
- ・大学で学んだ知識を現場の応用に生かした実習になっていると感じた
- ・接客態度等に対して教育的だった
- ・実習生は遅刻もせず（当然だが）、髪も黒く染め直し意欲が感じられた

一方で、企業側が業務秘密の観点から学生に仕事をさせず、自習のみさせた事例、アルバイトと同程度の仕事内容、学生に積極性が多少欠けている気配が感じられた、有機溶媒の蒸気が充満していて、インターンシップ先として疑問、といった否定的な所見もあった。

企業から訪問教員が聞いた意見として「理工科大の学生はよくやってくれる」という肯定的評価の一方、営業希望ではない学生が来て、同時期に他大学から来た営業志望の学生とのやる気の差が感じられた、学生がおとなし過ぎ会社にとってはもっと元気が必要である、といった辛口のコメントもあったという。毎年学生が取れる訳ではないとの理由で少し距離を置いている感じの企業もあった。学生の更なる士気向上も必要であるし、派遣先企業とのマッチングを考慮する事が来年以降の課題と言える。

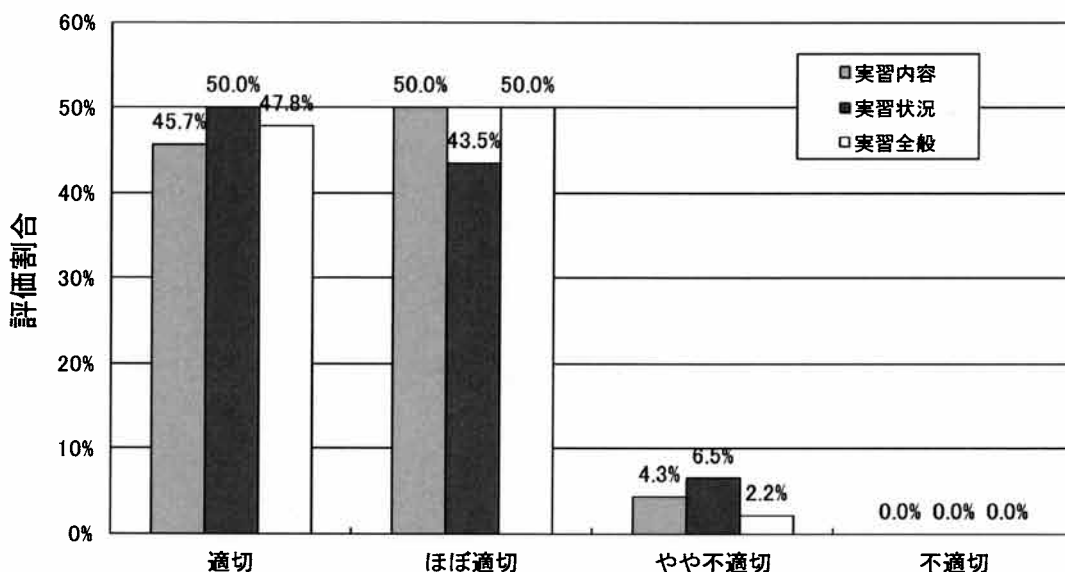


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

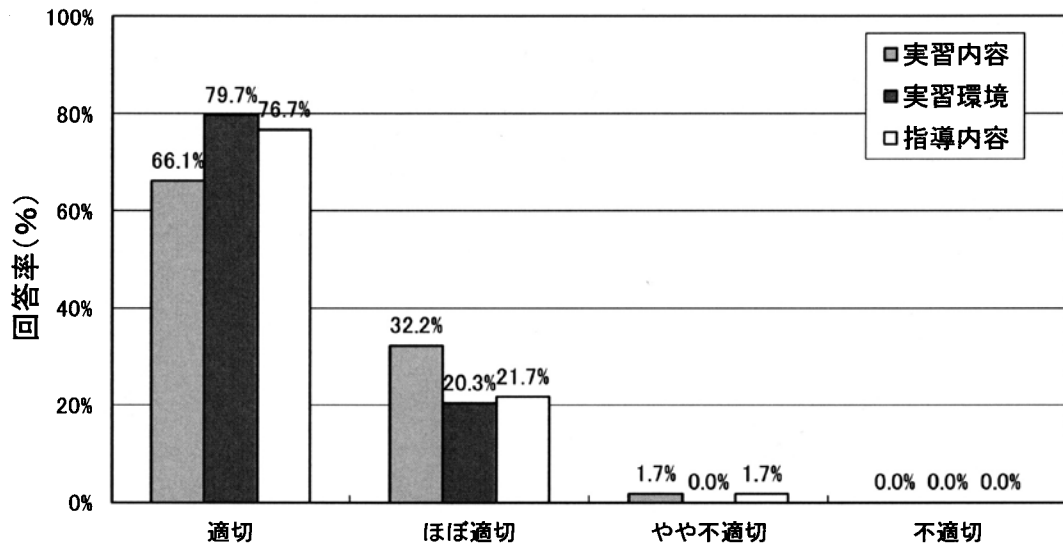


図 8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

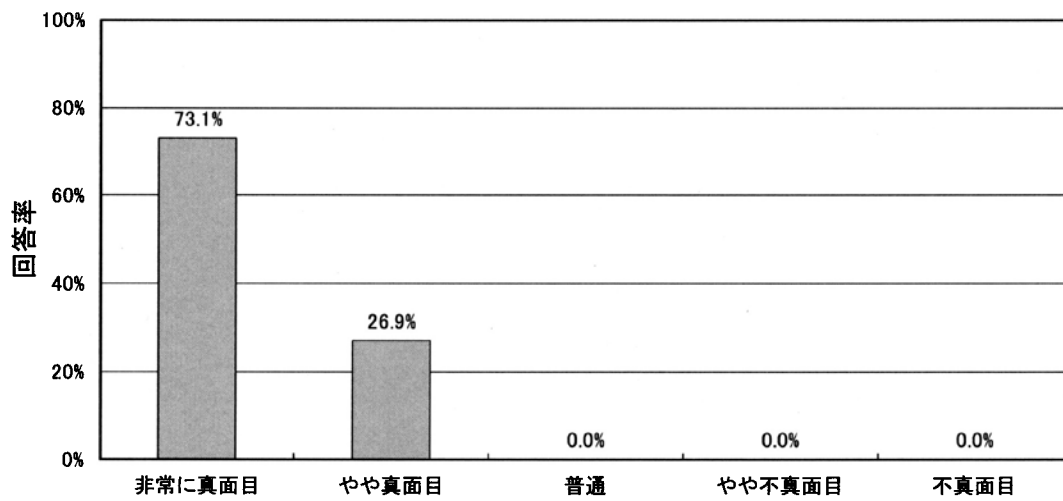


図 9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

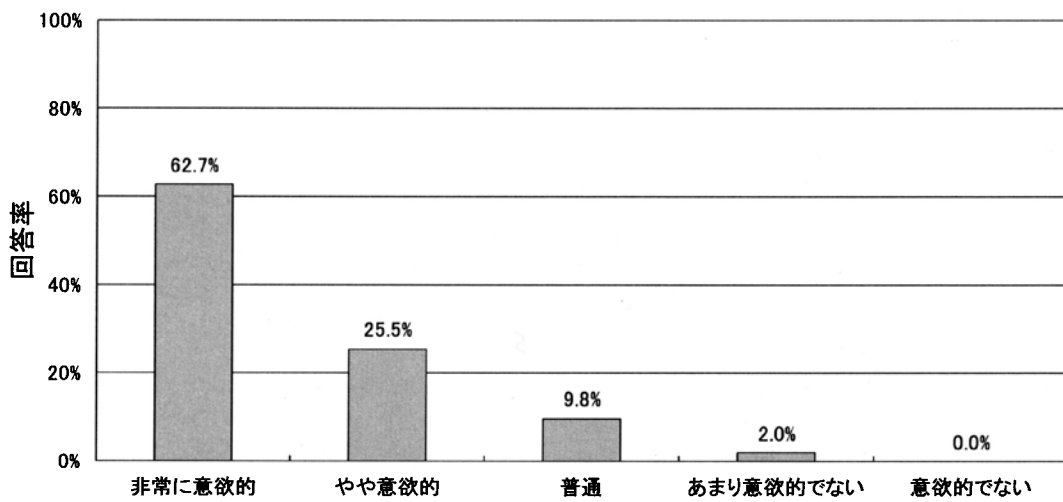


図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

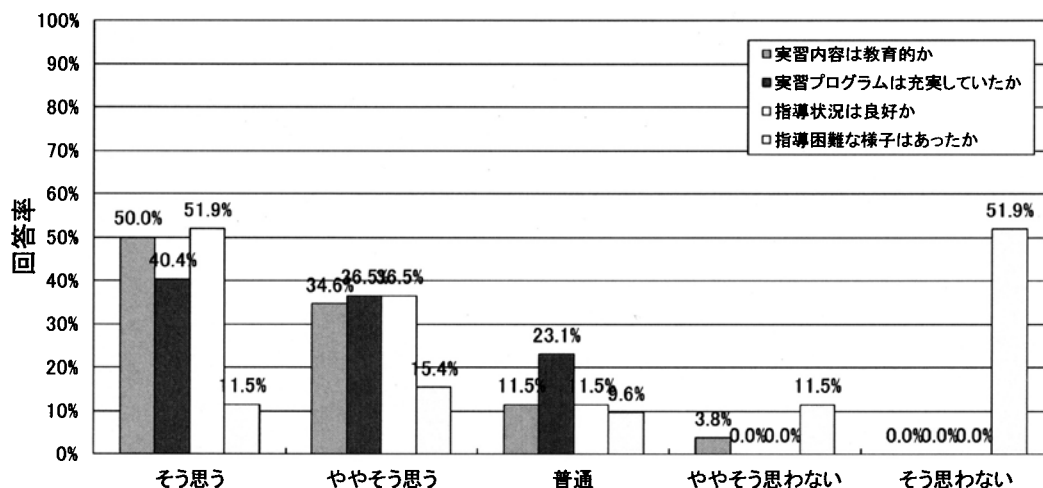


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

9. 平成 24 年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り、以下のようにまとめる。

9.1 事前研修について

今年度も事前研修は 3 回とした。キャリア支援教育も進んでいることから、今後も 3 回の事前研修で十分であると考えられる。

今年度は第 1 回事前研修への参加者が予想以上に多かった。他の学内行事と重なり 300 講義室が確保できなかったため、第 1 回事前研修が急遽 2 会場での開催となった。来年度以降はさらに参加者が増える可能性を配慮し、第 1 回事前研修会は 300 講義室で行う必要があると考えられる。

9.2 実習受け入れ企業数について

今年度は依頼企業の状況を分析し、受け入れの可能性のある企業に絞って依頼を行った。また、卒業生の就職先の中からもインターンシップ受け入れの可能性のある企業を選別し、計 394 社に依頼を行った。この結果、76 社、133 名分の実習テーマ受入申し込みがあった。

今後もインターンシップ受講者の増加が見込まれるため、より一層の実習先企業開拓が望まれる。

9.3 インターンシップ実習の評価

受け入れ企業および学生自身の評価において、「積極性」、「コミュニケーション能力」などの不足が指摘されている。これらは学生個人による差が大きい、本学学生の特徴とも捕らえることができる。これらの能力はインターンシップ事前研修だけで解決することは困難であり、入学時からのキャリア教育全般や、各講義での地道な指導が必要となると考えられる。大学全体としての問題ととらえ、改善に取り組む必要があろう。

9.4 春期インターンシップについて

今年度初の試みとして、春期インターンシップを試行した。今年度は 22 社からの受け入れ申し込みがあったが、実習を行う予定の学生は 4 名のみとなった。

第 1 回事前説明会には 27 名の参加があったが、実際に実習を行ったのは 4 名のみであった。これは、企業の決算期でもあることから受け入れ企業数が多く確保できなかった点、これにより学生の希望職種にマッチする企業が非

常に少なく、また学生の自宅から実習場所への通勤の可能性などを考慮すると実習可能となる企業がほとんどないことなどが原因である。

来年度以降、今年度の結果を踏まえ、実施方法等を再考しながら春期インターンシップの開催について検討を行っていただきたい。

9.5 その他

例年インターンシップ報告会を 12 月に開催してきたが、実習終了からの期間が開きすぎているため、今年度は 11 月に開催した。報告会はできるだけ学生および企業担当者双方の印象に残っている間に開催することが望まれる。このため、来年度は報告会を 10 月に開催することとし、さらに開催時期を早めることとした。

大きな事故ではないが、ここ 2 年間、実習先での怪我が発生していた。幸い今年度は事故の報告はなかったが、来年度以降も事前研修等を通じ、事故発生防止の指導を行っていただきたい。

今年度、企業からのクレームが 2 件あった。

1 件は学生の希望職種と企業側の受け入れ職種のミスマッチである。受け入れ企業への事前の説明と、学生への指導を進めることにより、可能な限りミスマッチが起らないような体制作りが必要となるかも知れない。

もう 1 件は企業からの意見の中に、「研修期間中に指導教諭が来社したが、事前アポの取り方が横柄でした。大学のイメージが悪くなります。」(原文のまま)とのコメントがあった。企業からは学生の実習態度のみならず、教員の姿勢も評価されている。一人の教員のみのもことではあるが、一教員の態度が大学全体の印象および評価を下げることとなる。教員が訪問する際にも十分な配慮が必要であり、来年度以降、教員訪問時の対応に十分配慮されたい。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および担当者の皆さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得た

- か？—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
 - 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
 - 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
 - 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
 - 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
 - 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
 - 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
 - 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.
 - 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119-131.
 - 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107-118.